

日程	研究科	区分	試験科目
A日程	不動産学研究科	一般 社会人 外国人留学生	《選択問題》 経済学に関する問題

以下の問題にすべて答えなさい。

問題1

以下の図は、首都圏の超高層マンション竣工戸数及び棟あたりの平均戸数の推移を表したものである。なお、超高層マンションは20階建て以上のマンションとする。

図については、
著作権の関係から掲載いたしません。

- (1) 図からどのような傾向が読み取れるか、簡潔に説明しなさい。
- (2) 近年、超高層マンションが首都圏の一部エリアに林立していることが報道されるが、超高層マンションの林立が近隣地域へ及ぼす影響を経済学的な視点から簡潔に説明しなさい。
- (3) 平成29年度税制改正により、タワーマンションに係わる固定資産税の取り扱いが見直された。簡単に説明すると、同じマンションにおいて同じ専有面積で比較すると、低層住戸よりも高層住戸の固定資産税額が高くなるというものである。この改正が行われた背景・理由について簡潔に説明し、固定資産税の見直しが及ぼす影響について経済学的な視点から簡潔に説明しなさい。

問題2

- (1) 「公共財」の経済学における定義を述べるとともに、具体例を挙げなさい。
- (2) A、B、Cの3つのタイプの消費者がそれぞれ10人いる経済を考える。ある私的財に対して、タイプAの消費者1人の需要が $q = 200 - p$ 、タイプBの消費者1人の需要が $q = 150 - 2p$ 、タイプCの消費者1人の需要が $q = 200 - 2p$ 、とそれぞれ表されるとする。ただし、 q は私的財の需要量、 p は私的財の価格を表す。
- ① この私的財の市場の需要はどのように表されるか説明しなさい。
 - ② 生産者の限界費用が5で一定であるとする、社会的に望ましい私的財の供給量と価格はいくらになるか、説明しなさい。
- (3) D、E、Fの3つのタイプの消費者がそれぞれ10人いる経済を考える。ある公共財に対する個人の限界評価を V とし、公共財の量を G とすると、タイプDの各消費者については、 $G = 100 - V$ 、タイプEの各消費者については、 $G = 100 - 2V$ 、タイプFの各消費者については、 $G = 50 - 2V$ とそれぞれ表されるとする。公共財の供給の限界費用が1000で一定であるとする、社会的に望ましい公共財の供給量はいくらになるか、説明しなさい。